



AUE News

2010年12月28日

第7号



編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500



目次

行事予定(12月29日-1月15日)

トピックス

- ・ロータリーにイルミネーション点灯
- ・外国人留学生在がプレゼンテーション
- ・知立市と包括協定締結式
- ・「あかりアートの世界」展
- ・机の清掃

- ・皆既月食特別観望会
- ・クリスマス ランチコンサート
- ・クラウンの講演
- ・交通安全講習会
- ・小中英語支援室主催研修会
- ・第3回理科実験プレ教員セミナー
お知らせ・報告・投稿
- ・宝石研磨教室「勾玉づくり」

行事予定(12月29日-1月15日)

- 29日(水)-1月3日 年末年始の休日
- 1月4日(火) 年頭のあいさつ(11:00~ 第五会議室)
役員部局長会議(13:00~ 学長室)
- 5日(水) 教務企画委員会(13:30~ 第二会議室)
学生支援委員会(13:30~ 第五会議室)
- 7日(金) 教員人事委員会(16:40~ 第五会議室)
- 11日(火) 役員部局長会議(13:00~ 学長室)
- 12日(水) 教育創造開発機構委員会(9:30~ 第五会議室)
代議委員会(13:30~ 第五会議室)
教育研究評議会(代議委員会終了後)
- 13日(木) 財務委員会(13:30~ 第五会議室)
大学改革推進委員会(16:00~ 第三会議室)
- 15日(土) 大学入試センター試験(~16日 第一共通棟ほか)

トピックス

ロータリーにイルミネーション点灯(12/14)



本学のバス停前のロータリーにイルミネーションが12月14日(火)点灯し、大学の玄関口を温かな光で照らしている。

イルミネーションは高さ約5メートルの鯨と波しぶきを表現した作品。美術選修・専攻3年の学生が一昨年に刈谷駅前商店街のイルミネーションに出展するため制作し、昨年は刈谷ハイウェイオアシスにも展示した。

展示にあたって、学生たちが鯨の目の部分を手直しするなど“化粧直し”されたイルミネーションは、輝きを増して夕間に浮かび上がり、通りかかる人の目を楽しませている。制作・補修に当たった学生は「これまで学外の展示でしたが、今年は大学の全員の人が見てくれて嬉しい」と話していた。

点灯時間は日没から午後 11 時，大学入試センター試験の最終日となる 1 月 16 日（日）まで行われる。

外国人留学生がプレゼンテーション(12/15)



本学に留学中の外国人留学生によるプレゼンテーションが 12 月 15 日（水）午後 1 時 30 分から第二共通棟日本語教育第一演習室で行われた。

キャンパス・イマージョンルームの活動の一環として，学生・院生を対象にした催しで，この日は約 20 人が参加。発表者のイマージョンルームのピアサポーターとして活躍しているフェルナンデス・バロン・ダニエルさん（スペイン），ケラ・アンナ・マリア（ドイツ），コムス・スコット・アレクサンダー（アメリカ）の英語でのスピーチに耳を傾けた。

各国の歴史や自然，文化などの紹介をはじめ，スペインでは各州の自治権が強く，バルセロナの学校教育はスペイン語ではなくカタロニア語で行われていること，ヨーロッパでは「ドラえもん」「ドラゴンボール」などの日本のアニメが放送され，それを見て育ったことなど，日本ではあまり知られていない興味深い話も次々に披露された。アメリカの雄大な自然の映像に参加者が感動したり，ホットドッグ早食い競争のビデオに会場が笑いに包まれたり，民族衣装を着て登場した留学生もいて，終始和やかな雰囲気だった。

最後にはドイツの伝統的なクリスマス・クッキーを食べながら，質疑応答や意見交換が行われた。



知立市と包括協定締結式(12/17)



本学と知立市は 12 月 17 日（金）午前 10 時 30 分から，知立市役所で包括協定を締結した。

包括協定は，両者の連携をさらに発展させ，人的，知的資源の交流を図り，教育研究，生涯学習，文化，スポーツ，地域産業，まちづくりなどの多彩な分野において，地域社会の発展と人材育成に寄与するのが目的。

本学は今年 3 月に刈谷市と締結しており，今回が 2 番目。

両者を代表し，松田正久本学学長，林郁夫知立市長が協定書に署名し，書面を取り交わし，固い握手をした。

林市長は「愛教大は知立にとって馴染み深い大学。知立駅では毎日大変多くの学生さんが乗り降りし，小中学校での活動，駅前商店街活性化などさまざまな分野で活躍していただいている。教育面だけでなく，観光文化などに専門化，学生さんの視点で地域発展のために協力いただきたい」などとあいさつ。松田学長も「大学の“玄関口”でもある知立。学生が通いやすい環境に配慮いただき，お礼を申し上げたい。イベントに本学の若い学生たちの力を活用していただくなど，未永く協力していただきたい」とあいさつの言葉を返した。

本学では，今後も地域連携を拡充する計画で，来年 1 月には安城市との包括協定締結を予定している。



「あかりアートの世界」展(12/17-23)



美術選修・専攻の学生たちの光をテーマにした作品を展示した展覧会「あかりアートの世界」が12月17日(金)午後5時から、刈谷駅前商店街の「スペースAquaふれあい交流広場」で始まった。23日(木)まで。

会場では、宇納一公教授(美術教育)と彫刻研究室の3,4年生8人が制作した約20作品を展示。4年生の林幹久さんの作品は一見、金属素材のような魚の体内を灯りで照らし出した作品。



アンコウのように体の外側にもほのかな灯りがともされたユーモラスな表情が魅力。3年生の飯田夏代さんの作品は、素材がマカロニというユニークな照明。シェル形のマカロニを接着剤で球状にしてランプシェードにした。すりガラスのように優しい光で照らしている。ほかにも、木彫作品や紙や米粒などの素材を使った作品、影絵、ブラックライトを当てて蛍光色を放つ作品など、個性溢れるあかり作品が並んで、見学者は興味深そうに一つひとつの作品に見入っていた。



一つひとつの作品に見入っていた。

宇納教授は「素材・光・形が組み合わさって、うちの学生ならではの作品」と話し、制作に当たった学生たちは「自分なりに光を捉えた作品ができたが、光一つをとっても、いろいろな表現ができることが分かった。先生から3週間前に展覧会の話聞いて、制作時間が厳しかったが、楽しい展覧会になってよかった」と笑顔を見せた。

18日(土)には、宇納教授や学生が講師を務めて、一般参加の親子連れを対象にしたワークショップ「きらきら星を作ろう!」が開かれ、星形の光作品を制作。23日(木)には本学のアカペラサークルがアカペラでクリスマスソングを歌うパフォーマンスも披露され、好評だった。



机の清掃(12/21)



生協学生委員と教職員による教室の机の清掃が12月21日(火)昼休み時間に第一共通棟で行われた。

机の清掃は生協学生委員の呼びかけで、年に6回、偶数月に実施されている。今回は年末の授業が終了する前日のこの日に行われた。一般の学生や教員、教務課や学生支援課の職員など約40人が参加。

1~3階までの教室を回り、机の中のゴミを回収した。

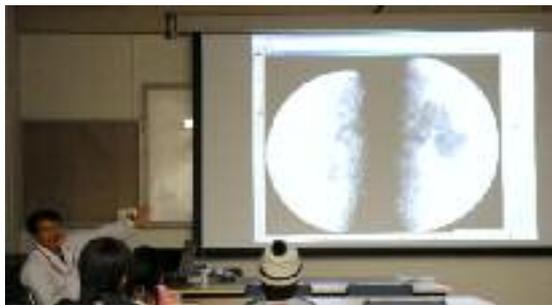
集まったのは紙ゴミ、お菓子の包装紙、ペットボトル、ペン、漫画本、文庫本などさまざま。中にはノートや教科書など授業に欠かせない“忘れ物”も。約20分の間に集められたのはゴミ袋6袋分になった。

参加した学生からは「小さなゴミならいいと思っているのか、飲み物のストローの袋などが多かった。人間性が問われますね」「持ち物は自分で管理して、こういう(清掃の)時には、多くの学生に協力してほしい」という声も聞かれた。



収集されたゴミは、この後、委員の学生が可燃、不燃、ペットボトルなどに分別をした上で処理された。次回の清掃は学期末の来年2月に行われる予定。

皆既月食特別観望会(12/21)



皆既月食を観察する観望会が12月21日(火)午後5時から自然科学棟天文台などで開催された。

月全体が地球の陰にすっぽりと隠れる皆既月食は、日本では2007年8月以来3年ぶりであって、理科教育の天文学研究室が一般向けの特別観望会を企画した。あいにく、この日は夕方ごろには雲に覆われ、開始時には小雨も振り出し、やむなく観望会は中止に。そこで、雨天の場合にと用意された「天文質問コーナー」が自然科学棟5階の教室で行われた。

天文ファンや子ども連れの見学者ら約10人が参加。澤武文教授(理科教育)が、月食についてレクチャー、参加者の質問に答えた。続いて、観測はできないものの天体望遠鏡の見学会が行われ、研究室の学生らが見学者に天体望遠鏡の使い方などを解説した。

名古屋市緑区から参加した親子連れは「小学校5年の息子が宇宙に興味を持っていて、月食を見たいとやって来ましたが、観測できず残念。愛教大で観測会をやっているのはインターネットで知り、初めて来ましたが、定期的に行っているそうなので、また参加したいです」と話し、子どもたちは望遠鏡の写真を撮ったり、メモをとるなどして楽しんだ様子だった。

次回の観望会は1月8日(土)午後5時から。詳しくは下記の専用ホームページを参照。

<http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/>



クリスマス ランチコンサート(12/22)

「クリスマス ランチコンサート」が12月22日(水)午後零時30分から、本学附属図書館2階「アイ♥スペース」で開催された。



音楽選修・専攻の学生や教員により季節ごとに開催されているランチコンサート。今回は教員メインとなり、クリスマスにちなんだ演目を披露した。

スタートは橋本剛、国府華子の両准教授のピアノ連弾による「クリスマスソングメドレー」。リズムカルで息の合った演奏で会場は一気にクリスマスモードに包まれた。ヨーロッパの古典楽器ハーディ・ガーディを吉澤恭子准教授、ファゴットを新山王政和教授、ピアノを橋本准教授が担当す

るアンサンブルは「3楽器のための小作品」を披露。ハンドルを回しながら演奏する珍しい楽器ハーディ・ガーディに多くの聴衆が耳を傾けた。

次いで、新山王教授のファゴット独奏ではメンデルスゾーン作曲「歌の翼に」、久石譲作曲「海のお母さん」、林剛一教授の独奏でグノー作曲とマスカーニ作曲の「アヴェ・マリア」が披露され、観客を魅了した。

最後は「本日のお楽しみ」と題した、出演者全員によるアンサンブル。「ホワイトクリスマス」「サイレントナイト」などお馴染みのクリスマスソングが演奏され、観客も「きよしこの夜」の2番の歌詞を合唱。会場が一带になって厳かな雰囲気の中で、コンサートはクライマックス、盛況のうちに終了した。



クラウンの講演(12/22)



世界を舞台に活躍しているクラウン（道化師）、大棟耕介さんによる特別授業が12月22日（水）午後、本学421教室で開催された。1年生対象の共通科目「平和と人権」で、恒例の授業には留学生を含む約70人が出席。本学非常勤講師でもある大棟さんはホスピタルクラウンとして名古屋市内をはじめ全国の病院で入院中の子どもの激励活動も続ける。道化師姿で大きなトランクを持って登場した大棟さんは手遊びや風船、ボールを使った技を披露、いすの足を額に乗せて手を離すパフォーマンスなどで笑い拍手を集めた。

病院で子どもを元気にさせる大棟さんを描いたビデオ上映に続いて、講義を行った大棟さんは

「これまで私の仕事はパフォーマンスとってきたが、最近は空気をつくること、と言っている。クラウンは名脇役であり、へりくだりが信条。私に会った病院の子どもたちは周囲の空気が変わることによって口数が増え、声が大きくなり、前のめりになる。私の下から（目線で）子どもを持ち上げることで元気が出てくるのです」と話し、クラウンの力、その魅力を力説した。学生らの中には大棟さんの話にしきりにうなずくなど最後まで熱心に聞き入っていた。



交通安全講習会(12/22)

学生を対象にした恒例の交通安全講習会が12月22日（水）午後1時30分から本学講堂で行われた。



本学卒業生で、愛知県警察本部犯罪被害者支援室の渡辺令子さんが「交通事故の遺族の思いを知ってほしい」と、この日の講師で交通事故被害者遺族の浅田千佳さんを紹介。2006年に小学5年生だった長男を交通事故で亡くした浅田さんの体験をまとめたビデオ映像が流れた後、突然の事故で愛する息子を亡くした悲しみを切々と訴えた。「守ってあげられなかったことを後悔し、息子のもとに行くことばかり考えていた。いなくなってもう4年でなく、まだ4年。あと何年苦しみが続くのか。夢でもいいから息子に会いたい」と癒えることのない苦悩を涙ながらに語り、「事故は決して他人事ではありません。今日

この話を心に留めておいてほしい。この中の誰一人、被害者にも加害者にもならないでください。それが息子と私の願いです」と結んだ。

続いて、刈谷署交通課の市川剛警部補が登場。「愛知県内で平成20年は276人が交通事故で亡くなり、平成17～21年は5年連続の全国ワーストワン。平成20年には刈谷市内で10件、11人も亡くなっています」などと、県内での事故の例を紹介。さらに飲酒運転で事故を起こして亡くなった運転手の妻が警察署長に宛てた手紙を読み上げた。実はこの手紙が加害者の家族として残された妻が重責に耐えかねて書いた遺書だったことを明かして、「家族、親戚、友人など、いろいろなところに影響を与える。どうかお酒を飲んで運転することのないように」と語り掛けた。



この講習は来年度の学内車両登録の条件になっており、この日は849人が参加。昨年の約600人、一昨年の約700人を大きく上回り、学生たちの交通安全への関心の高まりをうかがわせた。

小中英語支援室主催研修会(12/26, 27)

本学の小中英語支援室が主催する教員研修会が12月26日(日)、27日(月)の両日、本学第一共通棟などで開催された。

この研修会は、来年度から英語の授業が小学校で必修になり、中学校でも授業数が増えるのを前に、現場の教員を支援しようといわれたもので、今回が4回目。文部科学省特別経費プロジェクト事業としては、8月に続いて今年度2回目の実施。愛知県内を中心に、北海道や福岡など遠方からの参加もあり、約300人が受講した。

26日午前10時から開会式が行われ、本学松田正久学長が「来春から、ようやく日本でも英語教育が小学校で始まります。英語的思考を養うことは国際社会では大切なこと。異文化を理解するために必要。今日の研修会を役立ててください」とあいさつ。英語専攻代表の中村正廣教授も「回を重ねる度に多くの参加があり、小学校から大学まで受講する先生方も幅広い。必ず皆様方のご活躍に役に立つと確信しています。最後までご参加願いたい」と述べた。



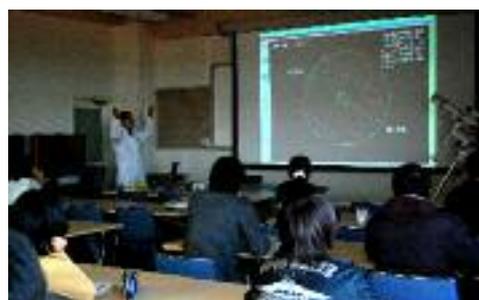
続いて、広島大学の松浦伸和教授が「新学習指導要領に基づいた小中英語の評価の在り方について」をテーマに講演。「簡素で効果的な評価が必要。きちんと指導した上で、評価するときは表現の能力、理解の能力など分析的に」などと評価システムや学力の要素などを解説。参加者はメモを取るなどして、熱心に聞き入っていた。

午後からは、分科会として研修セミナーや小中学校の授業の紹介が行われ、27日も小中学校での取り組みの発表や講演、シンポジウムが開催された。

第3回理科実験プレ教員セミナー(12/27, 28)

来春から教員になる学生などを対象に、理科の苦手意識解消を目指した「理科実験プレ教員セミナー」が12月27日(月)、28日(火)、自然科学棟で開催された。

セミナーでは「中学校理科」の内容を中心に、新学習指導要領で盛り込まれる内容や、中学校教員として知っておかなければならないことに焦点を絞り、実験・観察を中心にして理科分野6講座が設けられ、担当教員が指導に当たった。教員になる4年生を中心に、理科教育以外の学生やその他の学年の学生も合わせて延べ約20人が参加した。



27日午前10時からの「地学実験講座A」では、望遠鏡の使い方と昼間の金星の導入について。澤武文教授が、金星の満ち欠けや天体望遠鏡の特徴について講義した後、実際に屋上で望遠鏡の使い方を学んだ。設置から、鏡筒のバランスの取り方、ファインダーの調整などをレジユメの手

順に沿って行い、金星の観測に挑戦した。

参加した学生は「理科でも領域が違っていると指導に不安があります。こういう機会があると助かります」「小学校の教員になりますが、将来は中学で教えることもあるかもしれないので必要なことを学んでおきたい」と、慣れない望遠鏡の扱いにも意欲的に取り組んだ。

この後、生物講座「中学校でできるDNA抽出実験」、物理実験講座A「電流とその利用実験アラカルト」が、28日も化学講座、地学講座B、物理実験講



座Bの各講座が行われた。

お知らせ・報告・投稿

宝石研磨教室「勾玉づくり」(12/19, 23) (投稿)

「宝石の原石展」(11/29-12/24, 附属図書館「アイ♥スペース」)の記念イベントとして、「宝石研磨教室：勾玉づくり」が、12月19日(日)と23日(祝)に、第一共通棟の111教室で開催されました。小学1年生から大人まで、約50人が参加し、自分だけの宝石を完成させました。



両日とも、天気恵まれ、11月並みまで気温が上昇。水洗い作業も楽に行うことができました。勾玉づくり教室を開催するのは今回が5回目と6回目です。過去の開催は科学ものづくりフェスタの時でした。いずれの時も、受け付け開始後、10分程度で30人の定員に達してしまい、来場者の要望に応えることができませんでした。そこで、今回の開催を企画し、子どもまつりの学

生さんたちの助けを借りて、宝石研磨教室を開催することができました。

勾玉づくりは、形を整え、表面を磨いて光沢を出し、色を着色させます。この三つのプロセスは一般的な宝石の研磨作業でも行われており、教室の参加者は宝石研磨を体験することができます。最も軟らかい鉱物のひとつで滑石を材料に用いており、幼児でもヤスリだけで磨くことが可能です。勾玉の形を自由に設定できるので、大人の方にも楽しんでいただいています。研磨作業には1時間以上の時間を要しますが、途中で作業を止めた方はいませんでした。参加者全員が「世界で一つだけの石」を磨き上げました。勾玉づくりは、老若男女が楽しめる「ものづくり」です。



(科学・ものづくり教育推進センター 佐々田俊夫研究員)

編集後記

2010年も残すところ3日。皆さんにとってはどんな1年だったでしょう。本学広報専門職員となって半年が経過。その間、運営費交付金削減問題の浮上、大学行事、教職員や学生の活動、大学と地域の連動など、毎日さまざまな動きに、“今の大学”を見た思いがします。激動する時代、来年も本学の出来事を広報スタッフ一同、ウサギのようにピョンピョンと跳びはねて追いかけていきます。来る2011年が、どうぞ皆さんにとっても飛躍の年となりますように！(K)

*次号は「新年特別版」として1月4日(火)に号外を発行する予定です。

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二